



平成30年11月6日

各 位

会社名 三菱製鋼株式会社
代表者名 取締役社長 佐藤 基行
(コード番号 5632 東証第一部)
問合せ先 経理部長 細谷 光明
(TEL. 03-3536-3135)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成30年7月30日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

平成31年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	140,000	5,000	4,500	3,000	194.99
今回修正予想(B)	134,000	3,500	2,400	1,600	104.00
増減額(B-A)	△ 6,000	△ 1,500	△ 2,100	△ 1,400	—
増減率(%)	△ 4.3	△ 30.0	△ 46.7	△ 46.7	—
(ご参考)前期実績 (平成30年3月期)	118,742	3,219	2,837	2,904	188.79

2. 修正の理由

当第2四半期連結累計期間におきましては、北海道胆振東部地震による休止影響等もありましたが、売上高・利益とも、ほぼ前回予想並みとなりました。

通期の業績予想につきましては、売上高は、主要顧客の需要は引き続き順調に推移するものの、インドネシア鋼材事業合弁会社(JATIM社)において、新規顧客による材料承認のずれ込みと平鋼ユーザーの在庫調整による販売計画未達等により前回予想を下回る見通しとなりました。

営業利益は、第3四半期以降、北米子会社における関税問題は回避されますが、一方、材料市況の上昇によるコストアップ分の売価転嫁は進むものの上期上昇分は回収できず、生産性改善の遅れの影響は下期にも残る見込みです。また、JATIM社の販売計画未達の影響等もあることから、連結全体として前回予想を下回る見通しであります。

経常利益は、営業利益の見直しに加え、JATIM社でのインドネシアルピア安による為替差損により、前回予想を下回る見通しであります。

親会社株主に帰属する当期純利益は、経常利益を見直し、JATIM社の純損失の増加を同社の非支配株主持分へ反映したこと等により、前回予想を下回る見通しであります。

*当社は、平成29年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、「1株当たり当期純利益」を算定しております。

(注)上記の業績予想は、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により、予想数値と異なる可能性があります。